

平成30年度 最終評価報告書

石川県立小松明峰高等学校 (No.1)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び来年度に向けて
<p>(1) 3年間を見通した指導計画のもと、授業力の向上、家庭学習の充実、確かな学力の定着を図り、生徒の進路実現をめざす。</p>	<p>① 生徒による授業評価や教職員相互の授業評価をもとにして、学力向上につなげる授業を充実させる。</p>	<p>「学習内容について力がついたり実感できる」の項目に対し「はい」と答えた生徒の割合 A：60%以上 B：55%以上 C：50%以上 D：50%未満</p>	<p>D</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の生徒アンケート調査で「はい」と回答した生徒の割合は40.5%であった。（前期33.1%） ・「はい」と答えた生徒は増加してきたが、今後さらに授業改善に努める必要がある。
	<p>② 適切な学習課題を課すことや、生徒との面談を通して、家庭学習の習慣化を図り、授業の予習・復習にしっかりと取り組ませる。</p>	<p>「授業の予習・復習をしていますか」の項目に対し「はい」と答えた生徒の割合 A：55%以上 B：45%以上 C：35%以上 D：35%未満</p>		<p>C</p>
	<p>③ 国公立大学一般入試に対応できる記述学力の向上を図り、難関大学や金沢大学および国公立大学への進路実現率を高める。</p>	<p>国公立大学の現役合格者数 内難関大・金大 A：120人以上 A：20人以上 B：100人以上 B：15人以上 C：80人以上 C：10人以上 D：80人未満 D：10人未満</p>	<p>C/B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学の現役合格者数は96名であり、3年連続の100名突破は達成できなかった。中間層の学力の押し上げが課題である。 ・金沢大学14名、北海道大学1名の計15名の現役合格者数であった。金大推薦入試への取り組み方が課題である。
<p>(2) 新学習指導要領に掲げる、「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善」に向け、教員の資質向上を図るべく、校内外の研修を充実させる。</p>	<p>① 今後の大学入試改革を見据え、習得した知識・技能を活用させる探究型学習の比重を高め、生徒の論理的思考力の育成を図る。</p>	<p>探究型授業の研修や学習を実施した回数 A：10回以上 B：7回以上 C：5回以上 D：5回未満</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の総合的な学習の時間に課題探究を19時間行った。その中で外部講師による生徒向け、教師向けの研修会を行い、探究スキルの向上を図った。 ・金沢大学教授や保護者も招いて、課題探究ポスター発表会を行った。 ・探究活動のプログラムをさらに工夫していく必要がある。
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>		<p>アンケートの達成度判断基準に関しては、「はい」と「おおよそ」を合わせた数字で判断する形式にしてもよいのではないかと。国公立大学合格者の数は安定してきている。大学入学共通テストへの対応も見据えて、「深い学び」を追求して欲しい。</p>		
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>		<p>(1)の①②③に関しては評価基準を再検討する。ICTを活用したわかりやすい授業を行うだけでなく、大学入学共通テストに向けて、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた記述力を伸ばす授業を追求する。また(2)に関しては、1,2年生で実施する探究活動も昨年度の反省点を改善し、さらに内容を充実させていく。</p>		

平成30年度 最終評価報告書

石川県立小松明峰高等学校

(No.2)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
(3) 限られた時間の中で、教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保しつつ、これまでの働き方を見直す。	① 月1回の定時退校日や部活動における平日1日と土曜日又は日曜日1日以上の休養日を遵守する。	教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保しつつ、これまでの働き方を見直すことができたと感じる教職員の割合 A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	C	・1月実施の教員アンケート調査で、「はい」「おおよそ」と回答した教員の割合は51.1%であった。（「はい」12.8%、「おおよそ」38.3%） ・8月実施の教員アンケート調査では「はい」「おおよそ」と回答した教員の割合は66.6%であったが、「はい」20.8%、「おおよそ」45.8%）年間を通じて振り返ってみると、働き方を見直しできたと感じた教員は減少した。
学校関係者評価委員会の評価		最近のマスコミ報道等で、先生方の働き方改革についてしばしば取り上げられている。部活動についても新たな基準が設けられたと聞いているが、先生方には生徒のために是非頑張ってください。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		時間外勤務が100時間を超える教員は減少傾向にある。石川県における運動・文化部活動の在り方に関する方針も策定され、その方針に則った適切な働き方の実践に努める。		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
(4) 適切な部活動や生徒会活動の在り方を追求し、文武両道をめざすとともに、急速に変化する多様な社会に対応できる生徒の育成をめざす。	① 文武両道を確立するため、質と効率の良い練習を工夫し、県総合体育大会総合成績15位以内をめざす。	県総合体育大会総合成績が、 A: 10位以内 B: 11~15位 C: 16~20位 D: 21位以下	D	・県総合体育大会総合成績26位（H29; 26位、H28; 18位） ・ボート部と少林寺拳法部が全国総体に出場した。 ・吹奏楽部は北陸吹奏楽コンクールに出場し、北陸3県の15高校中の2校に選ばれ、北陸代表として、全国大会に出場した。
	② 生徒会活動を通して、生徒の自主自律の精神、規範意識の涵養を図る。	生徒会の一員として、生徒会活動における役割を自主的に果たしていると答えた生徒の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C	・12月実施の生徒アンケート調査で「はい」「おおよそ」と回答した生徒の割合は67.2%であった。（前期は62.4%）
学校関係者評価委員会の評価		公立学校で部活動も含めた働き方改革を進めていくと、部活動の時間が短くなり、私立高校との競技力の差が拡大する不安も感じる。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		本校では以前から文武両道を学校の方針として掲げている。効果的な練習方法を考え、限られた時間内で集中した練習等を行うことで、部活動が弱体化しないようにしたい。また、本校の生徒に求められている自主性を伸ばすことで、これまでと同等以上の成績を残せるように部活動を持っていきたい。吹奏楽部は県の方針に従った部活動を行っているが、北陸代表（2校のうちの1校）として、全国大会に出場した。		

平成30年度 最終評価報告書

石川県立小松明峰高等学校

(No.3)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
<p>(5) 地域に根ざした活動や情報発信を行うとともに、生徒指導に努め、地域・保護者により信頼される学校をめざす。</p>	<p>① いじめ防止基本方針に基づき、全職員の共通理解の下、挨拶や礼儀、マナー指導などを行う。</p>	<p>自発的に大きな声で挨拶をしている生徒の割合 A：60%以上 B：50%以上 C：40%以上 D：40%未満</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の生徒アンケート調査で「はい」と回答した生徒の割合は45.6%であった。（前期は41.5%） ・例年、後期の結果が下回ることが多いが、若干の向上が見られた。しかし、声かけによる挨拶が多く、満足のいく挨拶にはほど遠い。職員全てが挨拶励行を意識して生徒に伝えていく必要がある。
	<p>② 地域のためのボランティア活動を各学期に1回以上計画し、学校教育に対する地域の理解を得る。</p>	<p>ボランティア活動に参加したことがあると答えた生徒の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>D</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の生徒アンケート調査で「複数回参加」「一回参加」と回答した生徒の割合は58.9%であった。（前期は33.2%） ・これまでは、部単位での参加が多かったが、休日における部活動の在り方の見直しに伴って、ボランティア活動の新たな在り方も考えていかなければならない。
	<p>③ 学校公開、学校新聞、メール一斉配信、ホームページの定期的な更新を通し、積極的に情報を発信する。</p>	<p>学校の情報発信に対して、満足していると答えた保護者の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の保護者アンケート調査で「はい」「おおよそ」と回答した保護者の割合は89.0%であった。（前期は87.9%） ・HPの情報が保護者等の知りたいものになっているか検証する必要がある。
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>①の「自発的に大きな声で挨拶しているか」との問いに対して、「はい」と答えた生徒の割合は半数以下だったが、挨拶は上級生が率先して行い、下級生がそれに習うというのが理想的に思える。③に関しては、ホームページの更新を頻繁に行っているため、保護者もよく見ていると感じている。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>①に関しては、朝の挨拶だけではなく、授業の始まりと終わりの挨拶もしっかり行うことによって、挨拶は行って当然のものだとの意識の定着を図っていきたい。②に関しては、部活動単位での参加形態を考える。③に関しては、さらに見やすいホームページを目指し、改善していく。</p>			